

水田たより 1月号

令和4年1月5日

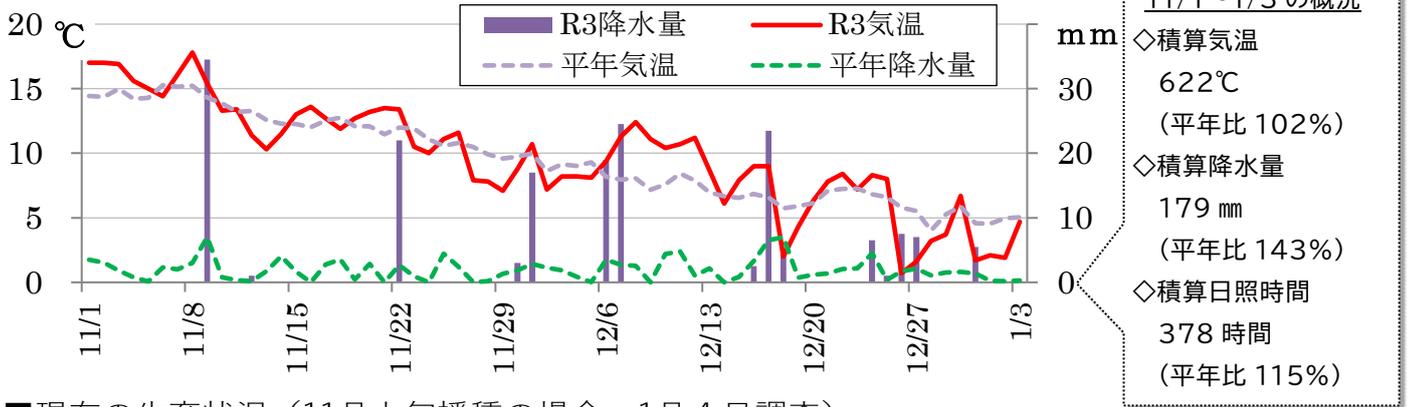
JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

気象概要と麦の生育状況

今冬は、12月中旬以降、複数回の降雪があり気温が急激に低下したため、麦類の生育は停滞傾向となっています。1月4日現在、桑名地域の小麦は12月下旬の低温の影響により、平年と比較して1葉程度遅れていますが生育は順調です。一方で、いなべ地域の麦類では、平年と概ね同程度の生育が確保されています。

■気象概況



■現在の生育状況 (11月上旬播種の場合、1月4日調査)

地域	品種	平年との比較		
		茎数	葉齢	葉色
桑名・木曾岬	小麦「さとのそら」	少ない	遅い	同程度
いなべ・東員	小麦「あやひかり」	やや多い	同程度	やや濃い
	大麦「ファイバースノウ」	やや少ない	同程度	やや濃い

(平年：直近5カ年の平均)

麦類の施肥管理

今後は追肥を施用して葉色や茎数を維持しましょう。ただし、積算気温が平年並みかつ積算降水量が平年の1.4倍以上あることから、肥料の溶出が進んでいると考えられます。葉色の低下が気になるほ場では、2回に分けて追肥をしましょう。

なお、大麦は硝子粒が課題となっており、特に、基肥に緩効性肥料を施用した場合は、2月以降に追肥を行うと硝子粒が増えやすいため、1月末までに必ず追肥を完了させましょう。

■基肥に緩効性肥料(麦エムコート 35 等)を施用した場合

種類	時期	窒素目安量	施用量(オール14の場合)	
小麦	1月下旬~2月中旬	2~2.5kg/10a	15~20kg/10a	
	(葉色低下ほ場)	1回目:1月中旬	1kg/10a	7kg/10a
		2回目:2月中旬	2kg/10a	15kg/10a
大麦	1月上旬~1月下旬	2~2.5kg/10a	15~20kg/10a	

■分施の場合

(2~3月の穂肥の時期・施用量については、次号でお知らせします)

種類	時期	窒素目安量	施用量(オール14の場合)
小麦・大麦	1月上中旬	1.5~2kg/10a	10~15kg/10a

水稲の刈り株が病害虫の越冬場所になってしまいます！

収穫が終わった水稲の刈り株をそのままにしておくと、病害虫の越冬場所となってしまう、翌年の収量に影響が出る可能性があります。

■「ニカメイチュウ」による芯枯れ被害

年に2回発生する「ニカメイチュウ」の被害は作期の遅い水稲で多い傾向があります。幼虫が茎下部に侵入して食害することで芯枯れとなり、白穂が発生するなどして減収につながります。

老齢幼虫が水稲の刈り株などで越冬し、翌年の発生源となります。



ニカメイチュウ幼虫
茎外に出して撮影



ニカメイチュウによる
白穂被害の多発圃場

※農業研究所撮影資料より

■「ヒメトビウンカ」による縞葉枯病被害

幼虫が水稲の刈り株や周辺のイネ科雑草で越冬しています。「ヒメトビウンカ」は縞葉枯病の原因となるウイルスを体内に持ち、吸汁されたイネは縞葉枯病に感染します。発病すると、穂の出すくみなどが生じて、減収につながります。

※坪枯れ被害を起こす「トビイロウンカ」と異なる害虫です。

■「冬季の田起こし」を実践しましょう！

普段の作業速度(2~3 km/h)からギアを1~2速落として
ゆっくり耕うんしましょう！

上記の害虫は、共通して水稲の刈り株で越冬します。

ゆっくり耕うんして刈り株を細かく裁断しましょう。①物理的に虫をつぶす、
②隠れ家(越冬場所)をなくす ことで越冬虫数を減らせます。

!!!スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の発生圃場でも、冬季の田起こしが有効です!!!
過去の水田たより(令和2年9月号)などもご覧ください。

■箱施用剤を使って防除しましょう！

上記の物理的防除でニカメイチュウ・ヒメトビウンカの越冬虫数を減らすとともに、あわせて箱施用剤などで防除をおこなって被害を減らしましょう。

薬剤名	有効成分(適用害虫)	特徴
ブーンレパード 箱粒剤	テトラリゾール(ニカメイチュウ)、 ジクロロベンジル、ペソルフェン	ニカメイチュウ等の害虫に加えて、いもち病、紋枯病等の病気にも登録がある。
フルスロツトル 箱粒剤	シアントラリゾール(ニカメイチュウ)、 トリフルメピリム(ウンカ類)、 イソチアピル、ペソルフェン	ウンカ類に高い効果を示すうえ、ニカメイチュウにも登録がある。
リディアNT 箱粒剤	フルピリシ(ニカメイチュウ、ウンカ類)	1つの農薬成分でウンカ類、ニカメイチュウに登録があり、「みえの安心食材」など農薬使用回数を減らす栽培に有効である。

※農薬の使用にあたっては、ラベルに記載された内容を十分に確認してください。